

## 資料 2

# 震災遺構について

2012年9月24日

### 「3. 1 1 震災伝承研究会」第2次提言

#### —震災遺構保存対象物第1回選考結果—

#### 「3. 1 1 震災伝承研究会」

研究会のメンバー及び自治体からの提案等をもとに保存が望まれる震災遺構を第1回分として選考しました。

研究会では、東日本大震災を後世に確実に伝えるために一つでも多くの遺構が残されることを期待しています。なお時期的に保存の決定が難しい自治体におかれましては「仮保存」という方法も含めて検討していただければと思います。

○対象自治体：宮城県内の沿岸自治体15市町

○結果は全体で46件

・内訳は被災建物・被災集落跡などが22件、その他(大型船、仮埋葬跡地など)が24件です。

・被災建物22件の中には、被災した学校が7校含まれます。

\* 学校関係／大川小(石巻)、門脇小(石巻)、谷川小(石巻)、鳴瀬2中(東松島)、荒浜小(仙台)、中野小(仙台)、中浜小(山元)

・「その他」23か所には、15か所の仮埋葬跡地が含まれます。

・自治体別では、石巻市がもっとも多く18件、次が気仙沼市と女川町でいずれも4件です。また今のところ該当する候補対象物がない自治体は、松島町、利府町、多賀城市です。

○今後の予定

・ 今回の震災遺構保存候補対象物リストは、3.11 震災伝承研究会のホームページ <http://www.tsunami.civil.tohoku.ac.jp/hokusa13/j/shinsaidensho/> に掲載します (PDF形式)。

・ まだ様々な震災遺構があるものと思われることから、研究会としてもさらに調査を進めます。また地域の皆さんにも広く情報をいただきたいと考えています。情報はメールで、[311densyo@gmail.com](mailto:311densyo@gmail.com) までお寄せください。

震災遺構保存対象物集計（第1回公表用）

| 対象自治体   | 被災建物・被災集落跡など | その他<br>(大型船、仮埋葬跡地など) | 計  | 備考                                 |
|---------|--------------|----------------------|----|------------------------------------|
| 1 気仙沼市  | 0            | 4                    | 4  | 「その他」に「第18共働丸」とその周辺、仮埋葬跡地2か所を含む    |
| 2 南三陸町  | 1            | 1                    | 2  | 防災対策庁舎にその周辺を含む                     |
| 3 石巻市   | 10           | 8                    | 18 | 「その他」に仮埋葬跡地7か所を含む                  |
| 4 女川町   | 3            | 1                    | 4  | 「その他」に仮埋葬跡地1か所を含む                  |
| 5 東松島市  | 2            | 1                    | 3  | 鳴瀬2中にその周辺を含む。<br>「その他」に仮埋葬跡地1か所を含む |
| 6 松島町   | 0            | 0                    | 0  |                                    |
| 7 塩竈市   | 0            | 3                    | 3  |                                    |
| 8 七ヶ浜町  | 1            | 0                    | 1  |                                    |
| 9 利府町   | 0            | 0                    | 0  |                                    |
| 10 多賀城市 | 0            | 0                    | 0  |                                    |
| 11 仙台市  | 3            | 0                    | 3  |                                    |
| 12 名取市  | 1            | 0                    | 1  |                                    |
| 13 岩沼市  | 0            | 1                    | 1  |                                    |
| 14 真理町  | 0            | 3                    | 3  | 「その他」に仮埋葬跡地3か所を含む                  |
| 15 山元町  | 1            | 2                    | 3  | 「その他」に仮埋葬跡地1か所を含む                  |
| 計       | 22           | 24                   | 46 |                                    |

・学校関係／大川小（石巻）、門脇小（石巻）、谷川小（石巻）、鳴瀬2中（東松島）、荒浜小（仙台）、中野小（仙台）、中浜小（山元）  
 ・「その他」22か所のうち15か所が仮埋葬跡地

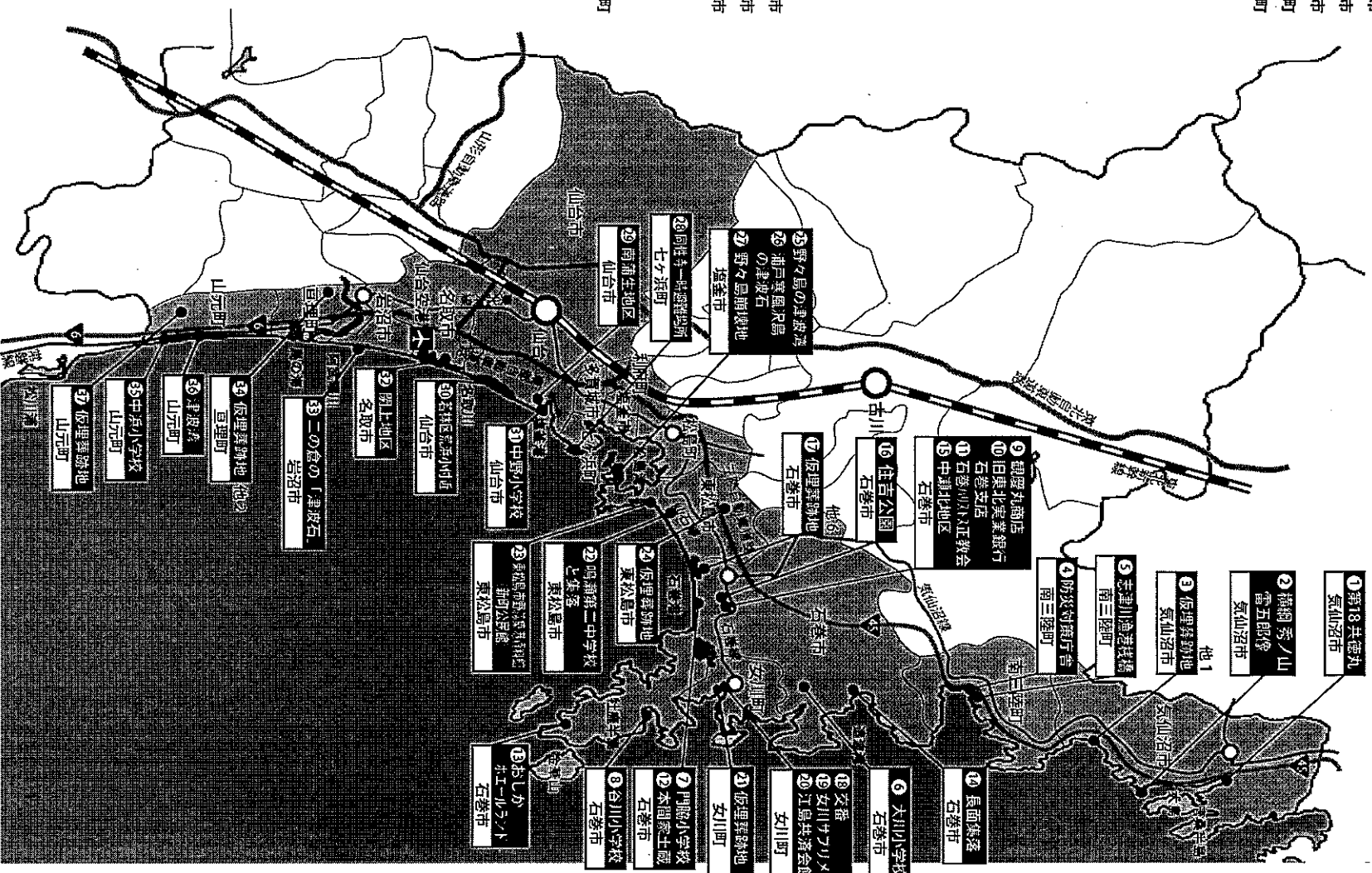
## 震災遺構保存候補対象物リスト（第1回公表用）

| NO | 対象物名称          | 自治体  | 所在地                      | 選考理由   |
|----|----------------|------|--------------------------|--|
| 1  | 第18共徳丸         | 気仙沼市 | 鹿折地区                     | 大津波が大形船舶を漂流させて甚大な被害が出た。大津波の脅威を実感させる代表的な遺構  |
| 2  | 横綱 秀ノ山雷五郎像     | 気仙沼市 | 若井橋                      | 第9代横綱の銅像。津波に負けずに残った希望のひびととして   |
| 3  | 仮埋葬跡地          | 気仙沼市 | 2か所                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 4  | 防災炊爨庁舎         | 南三陸町 | 志津川字塩入                   | 町民員54名2人が犠牲になった。犠牲者の慰霊の場、大津波の威力や震災を語り継ぐ場として。行政庁舎の地震、津波対策の重要性、重要性を次世代に伝えるためにも                                       |
| 5  | 志津川漁港桟橋        | 南三陸町 | 本浜町                      | 地震による地盤沈下の状況が見て分かる。一部を保存することで、地盤沈下だけでなく、困難を極めた復旧・復興について後世へ語り継ぐ資料とする  |
| 6  | 大川小学校          | 石巻市  | 釜谷山根                     | 津波で児童84人が死亡。行方不明になった。犠牲者の慰霊の場、今後の学校の防災対策を考えさせる場とする   |
| 7  | 門路小学校          | 石巻市  | 門路4丁目                    | 津波で津波で被災した唯一の学校  |
| 8  | 谷川（やがわ）小学校     | 石巻市  | 大谷川浜三重坂                  | 昭和3年度津波の古蹟を含め、防災教育に役立つ大規模な敷地を残した。過去の経緯や想定に備わらずに地域住民が津波を警戒、連携して見守るや住民を守った   |
| 9  | 親善商店           | 石巻市  | 中央3丁目                    | 被災した歴史的建造物（昭和5年築）として   |
| 10 | 旧東北商業銀行石巻支     | 石巻市  | 中央3丁目                    | 被災した歴史的建造物（大正14築）として   |
| 11 | 石巻八丁文正教室       | 石巻市  | 中央                       | 津波被害から残った歴史的建造物として、明治30年築。津波被害から生き残った歴史的建造物として   |
| 12 | 本間養生館          | 石巻市  | 門路町2丁目                   | 明治30年築。津波被害から生き残った歴史的建造物として  |
| 13 | 赤いカネエールラッシュ下駄  | 石巻市  | 鮎川浜南                     | 被災した歴史的建造物として、明治30年築。津波被害から生き残った歴史的建造物として  |
| 14 | 奥面集落           | 石巻市  | 奥面南                      | 被災した歴史的建造物として、明治30年築。津波被害から生き残った歴史的建造物として  |
| 15 | 中津北地区          | 石巻市  | 中津（奥津橋の北側の一角）            | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 16 | 住吉公園           | 石巻市  | 住吉町1丁目                   | 石巻の名前の由来である「巻き石」の保存  |
| 17 | 仮埋葬跡地          | 石巻市  | 7か所                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 18 | 交番             | 安川町  | 安神戸                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 19 | 安川サリメント        | 安川町  | 安神戸                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 20 | 江島公民会館         | 安川町  | 安神戸                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 21 | 仮埋葬跡地          | 安川町  | 1か所                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 22 | 奥津第二中学校之集落     | 東松島市 | 南余貴                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 23 | 野庭葉巻資料館（新町公民館） | 東松島市 | 東松島市野庭（新町）<br>鳴瀬川河口（石巻市） | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 24 | 仮埋葬跡地          | 東松島市 | 1か所                      | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 25 | 野々島の津波塔        | 塩釜市  | 浦戸島野々島                   | 津波により多くの人が犠牲になった。その後の応急対策がいかに困難を極めたかという証として  |
| 26 | 浦戸颶風沢島の津波石     | 塩釜市  | 浦戸颶風沢島<br>佐久間門新田         | 地震時の崩壊で発生した大量の岩塊が、津波で付近一帯の放棄水田に押し流され、大小の岩塊が残存している。今回の津波による津波石の発生は、他にあまり例がない。地震と津波の脅威を示すとともに、津波力を定量的に評価できる科学遺産として貴重 |

| NO | 対象物名称     | 自治体  | 所在地                        | 選考理由   |
|----|-----------|------|----------------------------|--|
| 27 | 野々島崩壊地    | 塩釜市  | 浦戸野々島柳浜寺<br>内浜および塩田島<br>一帯 | 野々島の外洋側にある3カ所のボットピーチと半島、陸田島などは地震と津波双方の被害を如実に記録している。陸田島(別名花割島)は地震前、屏風のようなたつた形で朝光の目玉だったのが、今回の地震時に外形を大きく変形させる崩壊が発生した。海底の状況や、柳浜に生じた津波痕や近隣の崩壊跡もきめ、地震の被害と津波被害の複合破壊を象徴する。破壊は自然史を具体的に物語る貴重な科学・自然・伝承・景観遺産 |
| 28 | 同姓寺一時避難場所 | 七ヶ浜町 | 花刈浜                        | 同姓寺は、地域の自主防災組織が防災マップや確定津波浸水予測に基づいて指定した一時避難場所であった。東側の津波は想定より約2m以上高かったが、避難した約60人の住民は、防災リテラシーの徹底で場所へ容易に避難して全員無事だった。想定外の外にせず、悪化を免くす行動がいかに重要か、記念碑など何らかの形で記録、伝承する                                      |
| 29 | 南浜生地区     | 仙台市  | 宮城野区南生                     | 仙台港の松林を主体とする海岸林は、台風、地震、震災など極端な気候変動被害を受ける脅かされた。この地域は、その真相を如実に示し、津波の力がいかに巨大かを物語る。再生する自然の始り地と、海岸林の津波減災効果を示す場として重要   |
| 30 | 岩林区荒浜小付近  | 仙台市  | 岩林区三本家北                    | 五柱神社を中心とした歴史を継承や狐や神などを祀る古北田川から取川までの約10キロの地域、津波の破壊力を如語る住宅の墓石群が残る。宗浜小学校は津波浸水時に避難場所として機能し、震災を広える場となる  |
| 31 | 中野小学校     | 仙台市  | 宮城野区中野                     | 古北田川沿岸に位置する2階建ての校舎。倒壊したが、震災まで津波は到達せず、避難した約600人の命が助かった建物として   |
| 32 | 扇山地区      | 名取市  | 扇山地区                       | 被災した住宅の墓石群が広がる被災地の光景。津波の広域的な破壊力を示し、その被害的な当時の状況と復興への第一歩を象徴できる   |
| 33 | 二の倉の「津波石」 | 岩沼市  | 二の倉一帯                      | 津波による破壊と運搬のメカニズムが理解できる。過去の津波の歴史(記録や時代など)を知る手がかりとしての津波石の学術的意義が理解できる   |
| 34 | 仮埋葬跡地     | 宮理町  | 3か所                        | 津波により多くの人々が犠牲になった。その後の緊急対策がいかに困難を極めたかという証として   |
| 35 | 中浜小学校     | 山元町  | 坂元                         | 津波の破壊力と生じた90人の英和を如語る建築物  |
| 36 | 津波湾       | 山元町  | 中浜小付近                      | 津波がもたらした人工物と自然の合作による世界唯一の自然景観。形成過程も科学的に明らかにされており、学術的に極めて貴重   |
| 37 | 仮埋葬跡地     | 山元町  | 1か所                        | 津波により多くの人々が犠牲になった。その後の緊急対策がいかに困難を極めたかという証として   |

(注) 網掛けは被災建物・集落跡関係

- |                |      |
|----------------|------|
| ① 「第18共徳丸」     | 気仙沼市 |
| ② 横綱 秀ノ山第五郎像   | 気仙沼市 |
| ③ 仮埋葬跡地 (2ヶ所)  | 気仙沼市 |
| ④ 防災対策庁舎       | 南三陸町 |
| ⑤ 志津川漁港操橋      | 南三陸町 |
| ⑥ 大川小学校        | 石巻市  |
| ⑦ 門脇小学校        | 石巻市  |
| ⑧ 谷川 (やがわ) 小学校 | 石巻市  |
| ⑨ 親慶丸商店        | 石巻市  |
| ⑩ 旧東北実業銀行石巻支店  | 石巻市  |
| ⑪ 石巻ハリストス正教会   | 石巻市  |
| ⑫ 本間家土蔵        | 石巻市  |
| ⑬ おしかホエーランド    | 石巻市  |
| ⑭ 長面集落         | 石巻市  |
| ⑮ 中瀬北地区        | 石巻市  |
| ⑯ 住吉公園         | 石巻市  |
| ⑰ 仮埋葬跡地 (7ヶ所)  | 石巻市  |
| ⑱ 交番           | 女川町  |
| ⑲ 女川サプリメント     | 女川町  |
| ⑳ 江島共済会館       | 女川町  |
| ㉑ 仮埋葬跡地 (1ヶ所)  | 東松島市 |
| ㉒ 鳴瀬第二中学校と集落   | 東松島市 |
| ㉓ 東松島市野々島港資料館  | 東松島市 |
| ㉔ (新町公民館)      | 東松島市 |
| ㉕ 仮埋葬跡地 (1ヶ所)  | 塩釜市  |
| ㉖ 野々島の津波湾      | 塩釜市  |
| ㉗ 浦戸寒風沢島の津波石   | 塩釜市  |
| ㉘ 野々島前壊地       | 塩釜市  |
| ㉙ 同性寺一時避難場所    | 七ヶ浜町 |
| ㉚ 南蒲生地区        | 仙台市  |
| ㉛ 若林区荒浜小付近     | 仙台市  |
| ㉜ 中野小学校        | 仙台市  |
| ㉝ 閑上地区         | 名取市  |
| ㉞ 二の倉の「津波石」    | 岩沼市  |
| ㉟ 仮埋葬跡地 (3ヶ所)  | 亶理町  |
| ㊱ 中浜小学校        | 山元町  |
| ㊲ 津波湾          | 山元町  |
| ㊳ 仮埋葬跡地 (1ヶ所)  | 山元町  |



- 被災建物・集落跡
- その他の遺構
- 新幹線
- 在来線 (沿岸部)
- 高速道路
- 国道



## 石巻市立門脇小学校解体・保存に係る意見・提案内容

### 1 結果

|               |             |         |
|---------------|-------------|---------|
| 石巻市震災復興推進会議委員 | 25名中        | 14名より回答 |
| うち            | 「保存を求める意見」  | 3件      |
|               | 「解体に賛成する意見」 | 10件     |
|               | 「中間意見」      | 1件      |

### 2 意見概要

#### 保 存

- ・ 見解としては、残すべきと考える。
- ・ 門脇小学校は現地保存することが望ましい。
- ・ 現存維持は将来的な老朽化から維持費が掛かり、正面中心に何メートルかの保存

#### 解 体

- ・ 残念だが、今の姿を見ると復興意欲が減退するので早く撤去して欲しい。
- ・ 門脇小学校の解体に賛成する。
- ・ 遺族の意見を尊重し、解体すべきと考える。
- ・ 門脇小学校を解体し、後世に継承する施設等を整備しては……
- ・ 門脇小学校は解体する。
- ・ 門脇小学校の「解体」に賛成する。
- ・ 大川小学校が残るのであれば解体した方が良い。
- ・ 将来に向けたまちづくりのために撤去もやむを得ない。
- ・ 門脇小学校の解体には大変残念に思うが賛成
- ・ 門脇小学校の現存は望ましくない。

#### 中間意見

- ・ 跡地利用計画の用途がつかまで解体を待った方が良い。

### 3 意見内容

別紙のとおり



【保存を求める意見】

意見・提案等

- 1 門脇小学校について  
門脇小学校の先生方の適切な誘導により、在校した生徒は全員無事に避難できたことは素晴らしいことだと思います。  
そうした、「良い事例としての言い伝え」をきちんとした形で残すのは大切なことだと考えます。  
また、指定避難所でありながらも 人間の想定を超えた災害（津波と引火による火災）があり得ると言うことも 教訓として伝え残すべきだと考えます。  
門小周辺が可住エリアとなったことで、周辺に住住する方達の心情は複雑なものがあること、また、指定避難所に逃げながらも、再避難の際に亡くなられた方が居ること、その親族の方の無念さ、心情にも配慮する必要があるとも思います。  
大変、手間のかかることだと思いますが、そうした方への丁寧な説明により、「忘れ去ってはいけないことを残したい」と正面から話した上で 残す方向で進めて頂きたい。  
また、市内全域の被災地の殆ど 被災した学校や多くの建物が解体する方向で進められている現状で、門小は、石巻被災地エリア全体の防災意識、災害の恐ろしさを忘れなれいと言う意味合いがある場所になると考えます。  
広島の平和記念公園のように、鎮魂と防災意識を高めるためにも 年に一度は広い校庭を使って行事をするなど、未来の石巻、ひいては日本や世界に伝え残して行く場所であって欲しいと考えます。  
結論として、単に残す、残さないではなく 将来像を示し 周辺住民や市民に使いたい方を説明し、議論を戴いて欲しい。そして個人の見解としては、残すべきだと考えます。
- 2 門脇小学校を保存することに賛成する。  
近隣に国営祈念公園が整備される予定がある中で、震災の記憶・教訓を伝えているため、また、防災教育に活用して行くことを考えた場合に、門脇小学校は現地保存することが望ましい。
- 3 南浜地区公園内に慰霊碑建立に対して景観を損なわない火事になった門小の全部の移築は大がかりと費用面もかさむので、門小の一部を残し南浜地区公園内に移す。  
現存維持では将来的に門小の老朽化等を考えるとコスト的には維持費がかかりすぎ、いずれは解体が余儀なくされるやも。  
正門中心に何メートルかの保存！

【解体に賛成する意見】

意見・提案等

1 毎週2回位被災地視察の方々を案内し、それとなく門脇小学校の解体・保存について聞くが、撤去案が99%と多い理由として、「気味が悪い」、「不気味だ」、「広すぎる」、「残す意味がない」などの意見が多い。

私個人としては、門脇小学校の卒業生であるので**残念だが、今の姿を見ると復興意欲が減退するので早く撤去して欲しい**と思っている。

市内、特に門脇、南浜町地域の方にも聞いても残す意見（希望）はなかった。

2 門脇小学校の解体に賛成する。

理由

- (1) 維持管理に多額の費用を要する。全額各市町村負担である。(税金)
- (2) 不要になり、解体する費用も各市町村負担(税金)
- (3) 景観上も「？」マーク

震災記録の継承

(1) 人が集まる公園(例 シンボル公園)等に慰霊碑を建立する計画があり、市民等に献花していただくので良。併せて避難路、所々の道路等人目につきやすい場所に津波がここまで来たことを示す、標識(石材等)を建てるといつまでも次世代に継承できる。

(2) 文化ホール、体育館、市民ホール等に地震、津波資料館(体験館)を併設し、その中に津波動画面(映写)、体験室をつくり見学者が体験できるようにする(有料)。

3 遺族の思いを尊重し、解体すべきと考える。

しかし、観測史上最大の巨大地震大津波により、人命、財産、社会資本等の多大な被害、悲しみ、苦しみを後世に伝えるため記録の展示施設を建設されたい。

4 私は、門脇小学校を解体し、後世に継承する施設等の整備をしてはと思います。

- (1) 門脇小学校の震災・避難記録等のモニユメント等を建立し、後世に継承する。
- (2) 同校の跡地活用として、児童、生徒専用のスポーツ施設等を整備し、子供たちの健全育成と体力向上を図る。
- (3) 地域住民が利用できる「ミニ公園」の整備を図る。

5 門脇小学校校舎は解体する。

- (1) 学び舎は在校生、同窓生、そして地域のシンボルとしての地域の人々には存置を求め、ことに異論はない。

しかし、到底抗しきれない自然災害をも越えねばならないことも必然で、地域の再生、発展としての総合計画であれば失う御愁よりも明日の光明に資することも良いと思う。

(2) また、大川地区は津波犠牲者発生率が高く、大川小児童の惨状は周知のところである。大川小校舎を中心として釜谷地区に「防災公園」として整備すべきである。校舎を資料館とし、自然災害の体験・伝承や教訓・意識の高揚の場とし、外部は全市犠牲者名を刻した「いしじ」を設置、鎮魂と慰霊の場とし、老若男女、時を問わず参拝でき震災を風化させることなく、また市民の憩う場として防災総合公園として整備すべきである。

#### 6 門脇小学校の「解体」に賛成します。

多くの遺族の心情を考慮すれば、解体撤去が望ましいと思います。

「亡くなられた方を慰霊する意味から後世に残してほしい」という意見は、第三者的見方のように思えます。

大震災の悲惨さを後世に残す手段は、被災した建物そのものを残さなくともあると思います。被災記録展示施設を整備するのなら、その中に、門脇小学校の震災前と後の模型を作製して展示するというのも一つの案ではないでしょうか。

保存するにしても、「放置保存」した場合には、将来的に建材が劣化してしまい、「危険物」として撤去せざるを得なくなる事態が考えられます。また、「補修・維持保存」の場合は、費用の捻出が問題になると思います。

門脇地区の復興整備には、現時点では、震災復興基本計画に沿った、南浜・門脇地区土地利用計画(案)が妥当と考えます。

#### 7 未曾有の大震災の教訓を風化させない点では残すべきと思慮させますが、大川小学校が残るのであれば解体した方が良くと思います。

#### 8 震災遺構の保存は直接的な感覚に訴えて被災状況の悲惨さを認識し、防災意識の風化を防ぎ、時代の人々の防災意識の涵養に資するものである。

しかし、このねらいはジオラマや映像等の資格媒体を通じるなどして、代替的にでも達成できる場合もあると思われる。

門脇小学校は多くの遺族の意向が撤去を求めるのであればその思いへの十分な配慮も必要と思う。また、遺構としての保存には相当の維持費もかかって行くことも考慮する必要がある。

慰霊のためには、遺構保存という方法とは別に検討する必要がある。

震災遺構の選定は、前述のように保存のメリットとデメリットを考慮しながら慎重に行う必要があるが、門脇小学校は将来に向けたまちづくりのために撤去もやむを得ない

と思う。

9 門脇小学校解体には大変残念に思いますが賛成致しません。  
跡地利用については計画通りに実施されるように日和田の景観には十分に配慮をお願い致します。

10 門脇小学校の現状保存は望ましくくない。  
・ 公園や非可住区域であれば再考  
・ 写真や動画、その他の震災資料を集め、街なかの建物のフロアを借りて展示する。  
(震災資料展示館として借上げ又は買上げる。)

【中間意見】

意見・提案等

1 私人人としては当初、市の南浜・門脇地区整備計画図の中で公園ゾーンとして計画されている中の震災遺構として、公園の一部として正面の一部だけでもモニュメントとして活用整備されればいいなと考えておりました。

ただ親を亡くした子供たちなどや関係者の方々のこれから先のことや心情を思いやる  
とき、教育委員会やPTA含めて今やり取り残されている事柄が客観的にでも一定の区  
切りがつくまで時間が必要だと考えるようになりました。

市当局として「跡地利用計画などの理由から解体の方向で考えておりますが・・・」、  
との意向については理解できますが、具体的な跡地利用計画が分からないので、せめて  
上記の区切りの**用途がつくまでは解体は待った方が良い**と考えます。

解体した後、復興に不可欠な役立つ優先順位を決めて計画すべきで、そこにお金のか  
かる箱モノの施設やモニュメント関連建築などはすぐ必要ではないと思います。そうい  
うものは石巻市が復興した後、余裕ができたらでもいいと思います。

すぐできることとしては、被災した石巻市立門脇小学校のメモリアル保存として、解  
体で取り壊される前に津波被害の資料的価値を映像等のデータに残すことです。

具体的には、米インターネット検索大手グループが事業として乗り出した、岩手・福  
島両県の4市町で被災建築の内部を撮影し、被災遺構の360度パノラマ画像をインター  
ネット上に残すという内容の事例があり、例えばこれとの連携活用で、各地に散らばる  
関係者の家族でも見ることができ、思いをはせることができます。これは記憶の風化を  
防ぐ助けになると考えます。

これは他の震災遺構についても同じです。